

2022 年度
自己点検評価年次報告書
【短期大学部】

目白大学短期大学部

部門別「自己点検評価年次報告書」の目的

目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会

本学の内部質保証は、学長のリーダーシップのもと、大学の理念や方針に従い、現在の教育、研究、管理運営、社会貢献などの活動について、自らが現状を振り返り、向上と健全化を目指すために、ひたむきに改善を継続するプロセスが重要だと考えます。

その目的を果たすために、年度ごとの振り返りを行い、P D C Aサイクルを用いた「報告書」で可視化することで、各教職員や各学科等の現在地や問題点の気づき、改善、あるいは維持のプロセスを確認し、本学の目標の再確認を行います。

この『部門別自己点検評価年次報告書』は、本学の教育活動の主軸である各学部、学科と附属施設及び委員会・センターの自己点検・自己評価です。各部門での教育の改革・改善の振り返りや次年度目標といった改善プロセスを大学内外に公開・共有することで、向上心と改革に前向きな姿勢を持続させ、教育の質の向上と健全化に取り組みます。

目 次

凡 例	1
短 期 大 学 部	3
各 種 委 員 会	19

凡 例

2023年5月1日

本報告書に記載する項目の定義並びに数値の算出方法は以下の通りとします。

- 学生数 …… 正規課程所属の在学生。研究生や科目等履修生は含まない。
(大学院・大学・短大)
- 留学生数 …… 上記「学生数」の中の留学生数の内訳。研究生や科目等履修生は含まない。
(同上)
- 専任教員数 …… 大学学部と短大各学科における所属でカウントするほか、大学院に所属する教員はその専攻でも専任教員として、研究所に所属する教員はその研究所でも研究員としてカウントする。
(本学では人事取扱い上、全ての大学教員は学部または短大のみに専属し、大学院は当該研究科所属であっても併任扱いとなっているが、本報告書で全ての大学院教員をカウントしないことは実態から乖離し、本報告書の趣旨にそぐわないため)
- 授業科目数 …… その学期に設定されている授業科目の数。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目（学部共通科目を含む）、及び学科別開講の共通科目を基準とする。ただし、履修登録前に閉講が確定している（隔年開講・教員急病など）科目はカウントしない。
 - ・ 1つの授業に複数のコマが設定されていても1科目と数える。
 - ・ 履修学生ゼロによる閉講科目は1科目と数える。
 - ・ 新カリキュラム・旧カリキュラムで科目名が変わるが同じコマで実施している場合は2科目・1コマでカウントする。
 - ・ 学外実習科目・卒業研究・留学期間の振替対応科目・臨地研修は1科目としてカウントするが、コマ数はカウントしない（学内で実習報告の授業等を行うことがあっても同様）。
 - ・ 再履修用授業を別途に実施している場合は、同一科目名であれば本体の授業と別扱いせず、コマ数のみカウントする。
 - ・ 通年実施の科目、及び卒業研究や臨地研修など学期ごとに完結する実態のない科目は「通年／その他」に分類して数える。
 - ・ 同一科目を複数の学科の学生と一緒に履修する形態で実施している場合は、それぞれの学科に全コマ数を加算する（全学科の合計コマ数が実態より多くなる）。
 - ・ 学部共通の専門教育科目は科目数・コマ数ともに各学部所属学科に単純加算する（全学科の合計科目数・コマ数が実態より多くなる）。
- 開講総コマ数 …… その学期に実際に開講（≠実施）されているコマ数の合計。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目（学部共通科目を含む）、及び学科別開講の共通科目を基準とする。
 - ・ 1つの授業に複数設定されているコマは別々に数える。
 - ・ 開講したが結果的に履修学生が開講基準以下で実施しない場合も、コマとしてカウントする。
 - ・ 8回授業等の場合は教務課のコマ数換算方法に準拠する。
 - ・ 非常勤講師の担当コマ数については実績に従い算出し、小数点第2位

- で四捨五入する。
- 進路状況 …… 年度末で確定した、卒業生の進路状況。
- ・ 就職は正規雇用または非正規雇用（契約社員（1年以上または1年未満）で就職した卒業生、進学は大学院、大学、専門学校、留学が確定した卒業生、その他はアルバイト、家事手伝い、結婚、資格取得準備中、進学準備中、留学準備中、公務員試験準備中、科目等履修生、研究生、聴講生の卒業生とする。
- 論文数 …… シート提出組織(学科)に所属する1名以上の構成員が執筆した件数の合計。
- ・ 複数の構成員が共同執筆していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同執筆論文について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・ 他の学科教員が共同執筆者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の論文件数より多くなる可能性がある）。
- 学会発表件数 …… シート提出組織(学科)に所属する1名以上の構成員が発表した件数の合計。
- ・ 複数の構成員が共同発表していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同発表について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・ 他の学科教員が共同発表者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の発表件数より多くなる可能性がある）。
- 科研費助成金 …… シート提出組織(学科)に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。
- ・ 研究代表者のみカウント（2研究課題を採択されているものは、2とカウント）
 - ・ 分担金配分前の総配分額（直接経費・間接経費の合計）を記載。
 - ・ 延長課題（当該年度配分なし）は含まない。
 - ・ 年度途中での退職者分も含む。
 - ・ 厚生労働省科研費も含む。
- 特別研究費 …… シート提出組織(学科)に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。
- （教育研究環境整備助成は研究内容に着目するのではなく当該年度の新任者の研究環境整備のために支給されるものなので、本欄では除外する。）

以上

短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート4 (短大学長・学部長・研究科長)	評価対象年度	2022年度(令和4年度)
カテゴリー	教育課程(総括)		
学部名・研究科名	短期大学部		
記入者氏名(役職)	山田 隆文(学長)		

<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>【教育(学生指導を含む)】</p> <p>① 講義、実習(臨床実習を含む)授業は、ほぼすべて対面で実施した。 ClassroomやZoom等のICTスキルの環境が整備されたことで、遠隔授業のノウハウを利用して、資料配信、課題提出、試験等の効率化ができた。</p> <p>② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」には59名が受験し15名が合格し、優秀な学生の確保につながった。</p> <p>③ メジプロ(eラーニング)を用いた入学前教育は、ベーシックコースを3教科から5教科の習得を目指し、ほぼ100%の実施率であった。入学後、ベーシックセミナーにおいてステップアップコースを指導している。 また、確認テストによる効果測定を2回実施し、基礎学力の把握することで教育に反映をした。</p> <p>④ インターンシップ(製菓学科・ビジネス社会学科)受け入れは回復傾向にある。</p> <p>⑤ ディプロマ・ポリシーに基づく「卒業における学修成果アセスメントテスト基準」による学修成果確認試験は、3学科全学生が合格をした。</p> <p>⑥ 国家資格は製菓学科では33名、歯科衛生学科では76名(既卒4名を含む)が合格をした。 その他の資格取得、資格取得奨励金の授与者は回復傾向にある。</p> <p>⑦ 就職支援部においてほぼ全学生に面談を実施することが出来た。 内定率はほぼ100%であるが、就職率は歯科衛生学科は上昇傾向、製菓学科は回復傾向にあるものの、ビジネス社会学科では伸び悩んでいる。</p> <p>⑧ 大学への編入は5名(学内4名、学外1名)で昨年より減少したが、編入要件の見直しを実施し、次年度の希望者は増加している。</p> <p>【研究】</p> <p>① 短期大学部独自で以下のようなFDを実施した。 研究発表会は9回実施し、各教員の研究テーマ等の共有を行った。 研究交流会として「ストレス対処法～認知とアンコンシャスバイアスの視点から～」をテーマに外部講師を招聘した。 教員相互授業参観は100%の実施率であり、他学科の教員の授業を参観することにより教育の向上を目指した。</p> <p>② 「学生による授業評価アンケート」には、各教員が改善点をフィードバックし、積極的にスキルアップを行っている。 また、アンケート結果は附属図書館に配架し学生・教職員に公開をしている。</p> <p>③ 研究紀要は13編の投稿、11編の採択と増加し、滞りなく発行することができた。</p> <p>【管理運営】</p> <p>① 会議は基本的にZoom開催とし、情報共有は効率的に実施されている。</p> <p>② 「外部評価委員会」を開催し、本学自己点検評価に対する客観的な意見を得られた。</p> <p>③ 2021年度より実施している「高大連携のための懇談会」を2回、「企業との懇談会」を実施し、ステークホルダーとの重要な意見交換を行った。</p> <p>【社会貢献】</p> <p>① 公開講座は3学科とも対面で実施したが、参加者数に伸び悩んだ。</p> <p>② 製菓学科は、中高生を対象の体験実習を5回実施できた。</p>	<p>(2) 今後の課題</p> <p>【教育(学生指導を含む)】</p> <p>① 教員の教育力の資質向上を目指し、「育てて送り出す」を体現するための情報共有と、若手の育成を行う。</p> <p>② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」をさらに活用し、優秀な志願者の確保を継続する。</p> <p>③ メジプロ(eラーニング)等の効果測定を総合的に分析し、支援の必要な学生の早期発見・早期の修学支援体制を確立し、休・退学の減少に努める。 入学後のステップアップコースへ100%の誘導を検討する。</p> <p>④ 国家資格(製菓衛生師、歯科衛生士)の合格率向上のため、教育・学生支援体制を整備し、志願者増加に結びつける。</p> <p>⑤ 種々の資格取得へのサポート体制を更に充実させる。</p> <p>⑥ 学生のニーズと求人の就職環境の激変に対応するため、キャリア意識を効果的に高められるような支援を実施する。</p> <p>⑦ 大学との連携により、短期大学部からのスムーズに編入できる体制を構築し、キャリアアップにつなげ、志願者増加に結びつける。</p> <p>【研究】</p> <p>① 教員の教育力・研究力向上、研究活動活性化のために、短期大学FDをさらに充実させ、教員の自己研鑽、教育力向上のための支援体制を構築する。</p> <p>② 外部資金等の獲得のための研究支援体制を構築する。</p> <p>③ 紀要を含む研究活動成果の公表を推進する。</p> <p>【管理運営】</p> <p>① 各学科の将来構想を元に、ディプロマポリシーに即した教育を実現するためのカリキュラム改革、教員の採用計画など、計画的な運営をめざす。</p> <p>② 学科を超えて教員間の懇談の機会を増やすことによる意思疎通を円滑化する。</p> <p>③ 学科を超えた情報の共有を徹底し、PDCAを意識しての運営を徹底する。</p> <p>【社会貢献】</p> <p>① 大学の魅力の発信力アップのため、教員の研究成果の公開や、産学官連携のために地域連携・研究推進センターと協力し、強化する。</p> <p>② 学生の地域貢献を推進する仕掛けを作り積極的に進める。</p> <p>③ 公開講座の実施内容・実施時期・ターゲットを検討し、より参加者増加のための広報を強化する。</p>
---	--

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	製菓学科					
評価対象年度				2022年度(令和4年度)						
入学定員		55名		専任教員数 (5/1現在)			特任内数	博士内数		
収容定員		110名					教授	2名	0名	0名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	58名					准教授	1名	0名	0名
	2年	65名					専任講師	2名	0名	0名
	3年	0名					助教	0名	0名	0名
	4年	0名					計	5名	0名	0名
	計	123名		助手	3名	0名	0名			
留学生数 (5/1現在)	1年	0名		他学科等所属専任教員数(5/1現在)		7名				
	2年	0名		非常勤講師数(5/1現在)		10名				
	3年	0名	0名	授業科目数	春学期	20コマ				
					秋学期	13コマ				
	計	0名			通年/その他	0コマ				
休学者数(年度末集計)		2名		開講総コマ数	春学期	65コマ				
退学者数(年度末集計)		1名			秋学期	51コマ				
進路状況 (年度末集計)	就職	58名			通年/その他	0コマ				
	進学	1名		論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	学会誌	0件				
	その他	1名			紀要	2件				
	計	60名			その他	0件				
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物		0件				
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		0件	内国外 0件			
社会貢献関連項目	件数	具体例								
産学連携(企業・団体)	0件									
地域連携(自治体・団体)	2件	体験実習、バレンタイン実習は対面で実施した。 「公開講座」は、対面で実施した。								
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	4件	東京和菓子協会本部理事(監査役) 一般社団法人 日本食育学会 一般社団法人東京都洋菓子協会 日本栄養改善学会								
その他社会貢献事業 (高大連携など)	0件									

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2022年度(令和4年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	製菓学科		
記入者氏名(役職)	伊藤 浩正(学科長)		

項目	2021年度 自己点検評価
教育 (学生指導含む)	課題と2022年度の改善目標(Action) ① 全対面での授業を実施するにあたり、授業内容を再検討する。 ② 退学者を最小限に抑える。 ③ 製菓衛生師試験対策講座の効果を検証した。 ④ 感染症対策を講じた上で対面授業を継続して実施する。 ⑤ 学生の就職に対する意識付けが不十分と思われるため、学科教員が連携して就職に関する意識の向上を目指す。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 継続して対面で行える授業内容か、見直しを図る。 ② 欠席過多、体調不良の学生は、学科で情報共有し、早期に対策を講じる。 ③ 製菓衛生師試験対策講座の実施方法の見直しを図る。 ④ 体調管理ノートへの記入、検温など学科独自の対策を続ける。 ⑤ 毎月月初旬に就職活動進捗状況報告書に記入してもらい、常に就職について前向きな意識を付けさせる。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育 (学生指導含む)	1. 取組状況(Do) ① 実習及び講義授業は全対面で行った。1年生は授業の一環として、桐和祭で製造販売を実施した。 ② 休学、卒業延期該当学生へは、担任、学科長が面談を実施した ③ 製菓衛生師試験対策講座の見直し内容を実施した。 ④ 実習ごとに体調管理ノートへの記入、検温を実施した。 ⑤ 毎月月初旬に「就職活動進捗状況報告書」に記入、提出させた。
	2. 点検・評価(Check) ① 感染者の状況に合わせて、実習室、更衣室の使用方法について検討がなされた。桐和祭は販売方法をセット販売にすることで問題なく実施できた。 ② 休学者1名、卒業延期学生4名は出たものの、退学者は0であった。 ③ 製菓衛生師資格試験は34名が受験し、33名が合格した。合格率97%であった。 ④ 実習ごとに全員体調管理ノートへの記入、検温が実施できた。 ⑤ 年度初めは8~9割、11、12月は5割、平均すると7割程度の提出率となった。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 対面での授業を継続するにあたり、授業実施内容を検討する。 ② 退学者を最小限に抑える。 ③ 見直した講座内容を継続して実施する。 ④ 感染症対策内容が5類に移行することにより授業実施態勢を検討する。 ⑤ 学生の就職活動が学科教員で共有できる体制を構築する。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 実習室、更衣室の使用方法について見直しを図る。 ② 欠席過多、体調不良の学生は、学科で情報共有し、早期に対策を講じる。 ③ 引き続き全員合格を目指す。 ④ 実習室、更衣室の人数制限なしなどを実施していく。 ⑤ 共有ファイル、もしくはGoogleドライブで共有して管理する。

項目	2021年度 自己点検評価
研究	課題と2022年度の改善目標(Action) ① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。 ② 引き続き紀要の投稿本数を伸ばす。構成員の半数を目標とする。 ③ ゼミは作品の向上につながる指導に努める。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 滞りなく発表ができるよう、発表の準備をする。 ② 紀要の投稿を促す。 ③ ゼミは作品の向上につながる指導になるよう研鑽に努める。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 短大研究発表会では2名の発表がなされた。 ② 紀要の投稿を促した。 ③ 本年度より「チョコレートゼミ」を開講し、学生の選択肢を増やした。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 担当予定回に滞りなく発表がなされた。 ② 投稿した結果、2本が採択となった。 ③ ゼミの卒業制作課題は新規の「チョコレートゼミ」も含め卒業年次生全員が期限内に提出できた
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。 ② 取り下げる結果となった紀要があるので必要に応じて助言をする。 ③ できる限り希望のゼミに配置させ、期限内で課題提出できるよう指導する。	
研究	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 滞りなく発表ができるよう、発表の準備をする。 ② 紀要の投稿が採択に結びつくよう必要に応じて助言をする。 ③ 希望のゼミに配置させ、人数が偏らないよう配慮する。

項目	2021年度 自己点検評価
管理運営	課題と2022年度の改善目標 (Action)
	① 登校しての対面授業になるので、引き続き感染症対策を講じて授業実施をする。 ② 学科長連絡会により3学科共通の課題の解決に努める。 ③ 学科内人事計画について、早期の対応に努める。 ④ 再度遠隔での授業実施になった場合、保護者対応体制を検討する。 ⑤ 受験生対応について、感染症対策を講じて対面での個別面談を目指す。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 体調管理ノートへの記入、検温など学科独自の対策を続ける。 ② 学科長連絡会を定期的に行い、課題解決に向けて3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について、春学期中に学科内で協議し任用申請の手続きをする。 ④ 遠隔授業における保護者対応についての窓口を設ける。 ⑤ 感染症対策を講じて予約制、人数制限などを取り入れ個別面談を実施する。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 体調管理ノートへの記入、検温など学科独自の対策は実施できた。 ② 学科長連絡会は定期、臨時で開催した ③ 専任教員及び非常勤講師の任用申請は早期に行えた。 ④ 全面对面授業に移行し、窓口を設けるほどの保護者からの問い合わせはなかった。 ⑤ 感染症対策を講じて対面での個別面談は実施できた
	2. 点検・評価 (Check)
	① 授業を介しての感染者は出なかった。 ② 合計14回の会議が実施され、課題解決に向け3学科協力した。 ③ 厳正、慎重に書類審査及び面接を実施し、適任者を採用することができた。 ④ 全面对面授業に移行し、学科への問い合わせは無かった。 ⑤ 感染症の影響もあり、個別面談自体希望者が減った。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
管理運営	① 感染症が収束していない観点から、引き続き対策を講じる。 ② 学科長連絡会により3学科共通の課題解決に努める。 ③ 学科内人事計画について、早期並びに慎重な対応に努める。 ④ 今後感染が拡大した時の対応を検討する。 ⑤ 入学者確保の観点から個別面談を必ず取り入れるシステムの構築を目指す。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 感染症の状況を注視して、マスク着用は必須とする。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催し3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について早期に学科内で協議し任用申請を提出する。 ④ 感染症の状況に合わせ必要に応じて保護者への説明をする。 ⑤ 入試広報部との連携を検討する。

項目	2021年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2022年度の改善目標 (Action)
	① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習を対面で実施できるよう準備する。 ② 企業との連携に関しては、引き続きふさわしい相手先を検討する。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
社会貢献	① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習は実習内容を見直し、時間短縮で実施する。 ② 連携先に関しては相手先の規模、連携内容について学科内で協議して決める。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会 貢 献	<p>1. 取組状況 (Do)</p> <p>① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習を対面で実施した。 ② 企業との連携はできていない。</p>
	<p>2. 点検・評価 (Check)</p> <p>① 体験実習各回、公開授業は感染症の観点から少人数で実施した。バレンタイン実習は降雪の予報から延期したが、実施出来た。 ② 依然コロナ禍ということで連携はできていない。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <p>① 毎回ではあるが、体験実習の内容の精査。バレンタイン実習は実施内容を検討する。 ② 引き続き連携できる企業の規模について検討が必要である。</p>
	<p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <p>① バレンタイン実習に代わる内容で企画検討する。(1日体験実習等) ② 個人店で連携できるかを検討する。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	ビジネス社会学科				
評価対象年度				2022年度(令和4年度)					
入学定員		75名	専任教員数 (5/1現在)			特任内数	博士内数		
収容定員		150名				教授	4名	0名	0名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	79名				准教授	0名	0名	0名
	2年	77名				専任講師	4名	0名	1名
	3年	0名				助教	1名	0名	0名
	4年	0名				計	9名	0名	1名
計		156名	助手	2名	0名	0名			
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		1名				
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		19名				
	3年	0名	授業科目数	春学期	21コマ				
	4年	0名		秋学期	28コマ				
	計	0名		通年/その他	0コマ				
休学者数(年度末集計)		1名	開講総コマ数	春学期	44コマ	内非常勤 担当	22コマ		
退学者数(年度末集計)		5名		秋学期	46コマ		14.134コマ		
進路状況 (年度末集計)		就職 65名 進学 8名 その他 3名 計 76名		通年/その他	0コマ		0コマ		
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額	0件	0千円	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	学会誌	1件	内国外	件		
				紀要	5件		件		
				その他	3件		件		
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物		5件	件		
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		3件	内国外 件		
社会貢献関連項目		件数	具体例						
産学連携(企業・団体)		1件	①クリアソン新宿 インターンシップを通してクリアソン新宿が主催するサッカーの試合でのイベント企画・運営を行った。						
地域連携(自治体・団体)		1件	①本郷法人会 文京区本郷法人会 中小事業者がより自立した経営を目指すための講座の実施						
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		5件	①秘書サービス接遇教育学会 理事 ・秘書サービス接遇教育学会の全国大会は対面の開催となり、研究集録の発刊も通常通り行った。 ②日本インターンシップ学会 理事 ③公益財団法人実務技能検定協会 理事 ④日本ビジネス実務学会 本部理事、東北・関東支部運営委員 ⑤公益財団法人実務技能検定協会 監修 ・ビジネス系検定の検定問題の校閲を行った。						
その他社会貢献事業 (高大連携など)		0件							

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2022年度(令和4年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	ビジネス社会学科		
記入者氏名(役職)	上岡 史郎(学科長)		

項目	2021年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	<p>課題と2022年度の改善目標(Action)</p> <p>① カリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについて、それぞれのフィールドを担当する教員と内容についてのチェックを行うとともに、学生への理解を促進するための方法を検討する。</p> <p>② 2022年度はすべての授業が対面授業となり、コロナ前の状態に戻っての授業となる。学生の学習態度・状況をしっかりと把握することができるようになるので、対面ならではのきめ細かな指導を行っていく。</p> <p>③ 例年通り科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成は行うとともに、学生個人がより深い振り返りができるようにしていく。</p> <p>④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほかに、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めていく。</p> <p>⑤ 2022年度はすべての授業が対面授業となり、コロナ前の状態に戻っての授業となる。通常授業だけでなく、対面授業でのアクティブラーニングや学校行事にも積極的に参加することで学生生活が充実したものになるようにサポートしていく。</p> <p>⑥ コロナウイルスの影響だけでなく、リモートで行うことで遠隔の保護者も参加していただいたことを受けて、対面と遠隔の双方での実施も検討する。</p> <p>⑦ メジプロについて各分野の締め切りまでに終わられない学生がいた。1年生クラス担任が学生の進捗状況を確認しつつフォローを行っているが、学習意欲などから学習が進まない学生に対するフォローの方法について検討する。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① 1年生履修登録前のオリエンテーション時にフィールドごとのモデル時間割を作成し、履修指導を行っているが、その時にカリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについての説明も行い、それらを理解したうえで履修登録を行うようにする。</p> <p>② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を共有しているが、メジプロ進捗状況や出席状況、就活動向だけでなく、それぞれの授業での様子なども情報共有していく。</p> <p>③ 例年通り科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成は行うとともに、学生個人がより深い振り返りをどのようにしていくかを学科内で検討する。</p> <p>④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほかに、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めていく。</p> <p>⑤ 実習授業を中心に対面授業ならではのアクティブラーニングを取り入れた授業に力を入れる。講義科目や演習科目についても、直接学生と直接関わられることで、学生への指導を決め細かく行っていく。</p> <p>⑥ 保護者の方に来校していただく対面型の説明会に加えて、同時並行で遠隔の保護者に対してリモートで説明会を行う方向で検討する。少しでもたくさんの保護者の方に参加していただける環境を作っていく。</p> <p>⑦ 毎月の学科会議終了後のFD委員会でメジプロの進捗状況を確認しているが、その中で学習が進まない学生に対しての支援策を検討していく。</p>

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育(学生指導含む)	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 1年生履修登録前のオリエンテーション時に例年通りフィールドごとのモデル時間割を作成し、履修指導を行った。その後のベーシックセミナー(1・2回め)で学生便覧を確認しながら履修登録の確認を行った。</p> <p>② 2022年度も学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を共有し、メジプロ進捗状況や出席状況、就活動向だけでなく、それぞれの授業での様子なども情報共有した。</p> <p>③ 例年通り科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成は行い、学生個人がより深い振り返りをどのようにしていくかを1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が学生の評価をもとに確認した。</p> <p>④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほかに、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めることができた。</p> <p>⑤ 実習授業を中心に対面授業ならではのアクティブラーニングを取り入れた授業に力を入れることができた。講義科目や演習科目についても、すべての授業が対面授業になったことで学生への指導を決め細かく行っていくことができた。</p> <p>⑥ 保護者の方に来校していただく対面型の説明会に加えて、同時並行で遠隔の保護者に対してリモートで説明会を行った。ハイブリッド形式で行うことで、たくさんの保護者の方に参加していただくことができた。</p> <p>⑦ 毎月の学科会議終了後のFD委員会でメジプロの進捗状況を確認し、学習が進まない学生に対してクラス担任がフォローしていくことで、すべての学生がベーシックコースとステップアップコースを終了することになった。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 1年生履修登録前のオリエンテーション時にモデル時間割の作成と、履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認までは行えたが、カリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについての説明は十分に行うことができなかった。</p> <p>② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を共有することができた。これによって、学科の教員全体で学科全学生の状況を共有することができた。</p> <p>③ 1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成を行って学生個人が自己の状況を振り返るだけでなく、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が学生の評価を確認することができた。</p> <p>④ 秋の成績表配布のほかに、年3回の学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めることができ、また保護者会後の個人面談等を通して、保護者との密な関係を保つことができた。</p> <p>⑤ すべての授業が対面授業となったことで、実習授業を中心に対面授業ならではのアクティブラーニングを取り入れた授業を行うことができた。講義科目や演習科目についても、直接学生と直接関わられることで、学生への指導を決め細かく行っていくことができた。</p> <p>⑥ 保護者の方に来校していただく対面型の説明会に加えて、同時並行で遠隔の保護者に対してリモートで説明会を行ったことで、たくさんの保護者の方に参加していただくことができた。</p> <p>⑦ 学習が進まない学生に対してクラス担任が徹底してフォローしたことで、すべての学生がベーシックコースとステップアップコースを終了することになった。</p>

学 含 む)	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 2022年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行い、課題であるカリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについての説明もベーシックセミナーを通して行っていく。 ② 前年度に比べて退学者数が変わらなかったことが課題と考える。引き続き学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を共有することで退学者減少を目指す。 ③ これらのシートを作成することで、どこまで学生が自己の振り返りができているかが課題である。これらを含めて、引き続き1, 2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成を行い、また1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が学生の評価を確認していく。 ④ 每学期ごとの保護者への成績表配布のほかに、年3回の学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めることができ、また保護者会後の個人面談等を通して、保護者との密な関係を保つことができた。 ⑤ すべての授業が対面授業となったことで、実習授業を中心に対面授業ならではのアクティブラーニングを取り入れた授業を行うことができた。講義科目や演習科目についても、直接学生と直接関われることで、学生への指導を決め細かく行っていくことができた。 ⑥ 保護者会については対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行うことで、たくさんの保護者の方に参加していただいたため、次年度も同じ形式で行っていききたい。 ⑦ 2022年度はすべての学生がベーシックコースとステップアップコースを終了することができたが、期限までに終了していない学生がいたことが課題である。2023年度は期日までに終了することを目指していききたい。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 2023年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行い、課題であったカリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについての説明は1・2回のベーシックセミナーを通して行っていく。 ② 2023年度も学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を共有し退学者減少を目指す。 ③ 2023年度も1, 2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入していく。また1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が学生の評価を確認していく。 ④ 2023年度も每学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供をより積極的に進める。また保護者会後の個人面談等も引き続き実施し、保護者との密な関係を保つ。 ⑤ 2023年度も実習授業を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていく。また講義科目や演習科目についても、学生への指導を決め細かく行っていく。 ⑥ 2023年度も保護者会については対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行っていく。 ⑦ 2023年度はすべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了することを目指す。

項目	2021年度 自己点検評価
研究	課題と2022年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き、紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。 ② 2022年度に就任した教員に加えて、様々な教員の研究報告を行っていく。 ③ 引き続き、授業参観の参加率を高めることで、他の教員の教育技法を学び、学生への教育効果の向上に務める。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き、紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。 ② 2022年度に就任した教員に加えて、様々な教員の研究報告を行っていく。 ③ 学科のすべての教員が授業参観に参加し、積極的に他の教員の教育技法を学ぶことで学生への教育効果の向上を目指す。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学会誌に1件、紀要に5件、その他として2件の論文投稿、書籍等出版物が4件、学会発表を3件行った。 ② 教授会後のFD発表会を通して、教員の研究成果の報告を行った。 ③ 学科のすべての教員が、規定の授業参加を行った。
	2. 点検・評価 (Check)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 2022年度以上の論文投稿と書籍等出版物の発行を行うことができた。 ② 年度初めに計画した通りのFD発表会を行い、学科内で今年度予定したすべての教員が報告することができた。 ③ すべての教員が2回の授業参観を行うことができた。また、授業参観シートをPDCAサイクルに基づいて記載するなどより充実したものになった。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 紀要への投稿は順調に行われ、学会での報告や論文も行うことができた。2023年度は昨年度以上に学会報告を行っていききたい。 ② 問題なく研究報告が行われているため、2023年度も引き続き行っていく。 ③ 問題なく授業参観が行われているため、2023年度も引き続き行っていく。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 2023年度も紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。 ② 2023年度に就任した教員に加えて、様々な教員の研究報告を行っていく。 ③ 2023年度も学科のすべての教員が授業参観に参加し、積極的に他の教員の教育技法を学ぶことで学生への教育効果の向上を目指す。

項目	2021年度 自己点検評価
管理 運 営	課題と2022年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整える。 ② 7年後の認証評価に向けて、今回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行っていく。 ③ 引き続きGoogle ClassroomなどのITCツールを活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整えていく。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き学科共有のGoogleドライブを活用することで、共有すべきデータを教員がいつでも活用することができるようにする。 ② 7年後の認証評価に向けて、今回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行っていく。 ③ 引き続きGoogle ClassroomなどのITCツールを活用するとともに、学生とのコミュニケーション手段として、よりよいITCツールの活用を検討していく。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況(Do) ① 学科会議後のFD委員会を通して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えることができた。 ② 7年後の認証評価に向けて、今回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行うことはできなかった。 ③ 全面的な対面授業になったが、Google ClassroomなどのITCツールも活用し、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整えることができた。
	2. 点検・評価(Check) ① 学科内で出欠状況や就活状況などの学生情報を全教員が随時情報を共有することができた。 ② 3つの意見を精査し、次回の認証評価に向けて準備を行うことはできなかった。 ③ 対面授業による学生へのきめ細かな対応と、ICTツールを効果的に活用することで、より充実した教育環境を構築することができた。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 問題なく学生情報の共有が行われているため、2023年度も引き続きこの体制を整えていきたい。 ② 次回の認証評価に向けての準備は進んでいない。前回の認証評価の3つの意見の確認を行っていく。 ③ 対面授業とリモート授業で構築したICTツールを活用しつつ、新たなLMSも活用していきたい。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 引き続き学科内で出欠状況や就活状況などの学生情報を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えていく。 ② 7年後の認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行っていく。 ③ 引き続きGoogle ClassroomなどのITCツールの活用と新たに導入するLMSも活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整えていく。

項目	2021年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2022年度の改善目標(Action) ① 引き続き学科新聞の送付など高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。 ② 2022年度も地域向けの公開講座を遠隔で実施することを検討する。入学対象者だけでなく、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。 ③ 学科の知名度を高めていくためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 2022年度も年3回の学科新聞を発行し、ビジネス社会学科の存在を高校側にアピールしていく。 ② 2022年度もビジネス社会学科から講師を1名選出し、公開講座実施に向けて準備を行っていく。遠隔での実施についても検討していく。 ③ 引き続き学会活動に積極的に参加し、発表や論文投稿を行う。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況(Do) ① 学科新聞の送付だけでなく、高校訪問も積極的に行った。 ② 地域向けの公開講座を企画したが、集客できず開催することができなかった。 ③ 教員が様々な学会に所属するだけでなく、何名かの教員が学会の理事などを務めている。
	2. 点検・評価(Check) ① 年3回の学科新聞の発行に加えて、教員による高校訪問や、高校生向けイベントの開催など、学科周知に向けての様々な活動を行うことができた。 ② 公開講座は実施することができなかった。 ③ 何名かの教員が学会の理事や運営委員を務めることで、目白大学短期大学部の存在を周知することができた。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 問題なく学科新聞を送付することができ、また高校訪問も実施できた。 ② 公開講座を企画しても集客ができないことが課題である。2023年度は集客にも力を入れていきたい。 ③ 積極的な学会活動を行っている教員がいる。2023年度も引き続き学会活動や社会貢献に力を入れていきたい。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 引き続き学科新聞の送付など高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。 ② 2023年度も地域向けの公開講座を実施する。昨年度の反省から集客に力を入れていく。 ③ 学科の知名度を高めていくためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	歯科衛生学科			
評価対象年度				2022年度(令和4年度)				
入学定員		60名	専任教員数 (5/1現在)		特任内数	博士内数		
収容定員		180名			教授	5名	0名	5名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	66名			准教授	1名	0名	0名
	2年	68名			専任講師	2名	0名	0名
	3年	44名			助教	2名	0名	1名
	4年	0名			計	10名	0名	6名
	計	178名	助手	1名	0名	0名		
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		15名			
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		18名			
	3年	0名	授業科目数	春学期	31コマ			
	4年	0名		秋学期	23コマ			
	計	0名		通年/その他	1コマ			
休学者数(年度末集計)		4名	開講総コマ数		春学期	41コマ	内非常勤 担当	
退学者数(年度末集計)		2名			秋学期	27コマ		6,269コマ
					通年/その他	10コマ		3,541コマ
進路状況 (年度末集計)	就職	40名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準		学会誌	0件	内国内 国外	
	進学	0名			紀要	5件		0件
	その他	3名			その他	0件		0件
	計	43名			書籍等出版物			1件
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		1件	内国内 国外	
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円			1件	0件	

社会貢献関連項目	件数	具体例
産学連携(企業・団体)	2件	・小林製薬 共同開発研究事業(唾液中の抗ウイルス物質の分泌を促進させインフルエンザの予防効果の向上を図るサプリメント開発)
地域連携(自治体・団体)	2件	・高齢者福祉施設「特別養護老人ホームパール代官山」 地域交流イベント ・新宿区立落合第二地域センター 健康講演:「健康は口(くち)から～オーラルフレイルの予防と対策～」
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	9件	・一般社団法人 日本口腔衛生学会 代議員 ・一般社団法人 日本口蓋裂学会 評議員 ・一般社団法人 日本障害者歯科学会 代議員 ・日本歯科衛生教育学会 常任理事 ・一般社団法人 日本口腔感染症学会 理事 ・日本唾液腺学会 評議員 ・全国歯科衛生士教育協議会関東甲信越地区会 理事・監事 ・全国大学歯科衛生士教育協議会 理事 ・一般財団法人 歯科医療振興財団 歯科技工士試験委員
その他社会貢献事業 (高大連携など)	3件	・出張講義: 神奈川県立上矢部高等学校(3年生対象) ・創玄書道会 (第58回創玄展漢字部第一科で秀逸を受賞、第47回創玄現代書展へ出品) ・毎日書道会 (第73回毎日書道展へ出品)

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2022年度(令和4年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	歯科衛生学科		
記入者氏名(役職)	内橋 賢二(学科長)		

項目	2021年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2022年度の改善目標(Action)
	<p>①「事前学習・事後学習」の分量について検討し、教員からの具体的な指示・指導内容を検討する。</p> <p>② OSCE(客観的臨床能力試験)の実施にあたって、学生のモチベーションの向上のために、実施内容をあらかじめ公開し、事前学習を促す。</p> <p>③ 国家試験の合格率に鑑みて国試対策の改善にあたる。</p> <p>④「ベーシックコース」への取り組みに対する指導が不十分で全員終了が達成できなかった。また、「ステップアップコース」への取り組みに対する指導も不十分であった。</p> <p>⑤ 3年次生を対象に就職・キャリア支援のGoogle Classroomを開設し、遠隔での情報提供と、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施する。</p>
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<p>①「事前学習・事後学習」を促す為に準備すべき項目について、具体的な指示を与える。</p> <p>② OSCE(客観的臨床能力試験)の実施にあたって、知識試験を追加する。また事前に実施内容について十分な説明を行い、さらなるモチベーションの向上を計る。</p> <p>③ 担任と学生との個別面談を年2回程度実施し、問題を抱える学生の保護者を含めた3者面談を早期に行う。</p> <p>④「ベーシックコース」の達成率を100%。また、「ステップアップコース」の達成率も50%以上に向上させる。</p> <p>⑤ 遠隔での情報提供と、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施し、就職状況を教員で共有し、記録として追跡調査の土台とする。</p>

項目	2022年度 自己点検評価 ※簡条書きにて記入
教育(学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	<p>①「事前・事後」学習を促す為に、あらかじめ課題を与えた。</p> <p>② OSCEの実施にあたって、実施科目をあらかじめ公開し、事前学習を促す。また、知識確認のために筆記試験を課した。</p> <p>③ 国家試験の合格率向上のために、模擬試験の結果から、クラス分けをして成績不良者の底上げを図った。</p> <p>④「ベーシックコース」への取り組みに対する指導が不十分で全員終了が達成できなかった。また、「ステップアップコース」への取り組みに対する指導も不十分であった。</p> <p>⑤ 3年次生を対象に就職・キャリア支援のGoogle Classroomを開設し、遠隔での情報提供と、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施した。</p>
	2. 点検・評価(Check)
	<p>①「事前・事後」学習を促す為に、あらかじめ課題を与えたが、学生アンケートによると家庭学習に費やす時間が60分以下で、十分な結果が得られなかった。</p> <p>② 実施科目の事前公開で、実習試験については向上が見られたが、筆記試験の結果は7割が再試験となり、知識教育に課題ができた。</p> <p>③ 成績不良者のクラス分けをして、成績の底上げを図ったが、実施時期が遅れたため、底上げが十分に行えなかった。</p> <p>④「ベーシックコース」の全員終了が達成できなかった。また、「ステップアップコース」へ取り組む学生も少なかった。</p> <p>⑤ 就職・キャリア支援の情報提供の結果、国家試験合格者の就職率は100%であった。</p>
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	<p>①「事前・事後」学習の時間が短いので、家庭学習に費やす時間を120分以下を目標とする。</p> <p>② 実習実施科目の事前公開と、筆記試験の正答率を80%以上とする。</p> <p>③ 成績不良者のクラス分けをより早期に行い、1月には模擬試験の正答率、65%以上を目指す。</p> <p>④「ベーシックコース」の全員終了と、「ステップアップコース」へ取り組む学生を60%以上とする。</p> <p>⑤ 引き続き就職・キャリア支援の情報提供を、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施する。</p>
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<p>①「事前学習」への取り組みを促す為に、事前課題を課す。</p> <p>② 筆記試験の出題を国家試験の過去4年間の問題から出題することとし、事前通告する。</p> <p>③ 模擬試験の開始時期を早め、回数も増やして、学生の実力の把握に務める。</p> <p>④「ベーシックコース」および「ステップアップコース」へ取り組みを必須とする。</p> <p>⑤ 引き続き就職・キャリア支援の情報提供を、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施する。</p>

項目	2021年度 自己点検評価
研究	課題と2022年度の改善目標(Action)
	<p>① 紀要には昨年度よりも多い5編の投稿があった。専門学会等への発表は1題あり、外部学会誌は投稿は3題あった。外部学会での発表が1題に留まっており、学会発表数の増加に努める。</p> <p>② 研究発表会・研究交流会・FDを継続して実施し、外部講師を招く等、さらなる研究活動の組織的な活性化を図る。</p>
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<p>① 引き続き学会誌・紀要等への活発な論文投稿活動へのサポート体制をつくる。</p> <p>② 研究推進体制を構築し教員の研究活動を支援し、若手研究者の科学研究費補助金への応募率向上に努め、学科内での共同研究の推進を図る。</p>

項目	2022年度 自己点検評価 ※簡条書きにて記入
	1. 取組状況(Do)
	<p>① 紀要への投稿は昨年同様5編あった。専門学会等への発表は1題あり、外部学会での発表への投稿がなかった。学会発表の増加に努めた。</p> <p>② 研究発表会を通じて、また外部講師を招く等、研究活動の組織的な活性化を図った。</p>

研究	2. 点検・評価 (Check)
	① 紀要への発表数が昨年と変わらず、学会発表も1題に留まった。 ② 研究発表会では、4題の発表が為されたが、研究活動は不十分であった。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 紀要への投稿を義務化する、一方、学会発表も推奨する。 ② 研究発表会での全員発表を目指す。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 学会での発表を隔年ごとに行えることをも目標とし、研究施設・器材の充実を図る。 ② 科研費への応募を義務付けする。

項目	2021年度 自己点検評価
管理運営	課題と2022年度の改善目標 (Action)
	① 全教員が「自己点検評価」「教育研究業績書」「授業評価アンケート」に基づく自己点検評価報告書を作成し、面談を通して自己点検評価とする体制を軌道に乗せる。 ② 各教員の適性や経験を踏まえ、適材適所の役割分担を考慮した担当者の配置、校務の効率化・平準化を図る。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 効率よく職務を運営できるよう、学科内における各自の役務分担を明確にする。 ② 必要に応じて、委員会を立ち上げ、臨機応変に事態を解決するよう取り組む。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 全教員が「自己点検評価」「教育研究業績書」「授業評価アンケート」に基づく自己点検評価報告書を作成した。 ② 教員の適性や経験を踏まえ、適材適所を考慮した担当者の配置、校務の効率化・平準化を図った。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 全教員が「授業評価アンケート」に基づく自己点検評価報告書をもとに、次年度の授業計画を作成した。 ② 教員の員数不足から、役務・仕事量が偏ってしまった。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 「自己点検評価」「教育研究業績書」を踏まえて、新たな研究科目への挑戦を意識付ける。 ② 新任教員が入ったので、職務の分担の効率化を図る。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 地域社会における一般向け講演会を企画して、発表の場を設ける。 ② 職務分担をチーム化し、効率効果を上げる。 ③ 短期大学のHPやTwitterやInstagramなどのSNSのさらなる活用および学科新聞の発行等により、広報活動を強化するほか、高校への出張講義なども積極的に行う。

項目	2021年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2022年度の改善目標 (Action)
	① 公開講座は年1回開催しているが、参加者は少なく、十分な知名度を得ていないので、SNS等を活用し活動の周知を図り、参加者数を増加させる。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 公開講座の周知に努力し、地域のコミュニティを通じて、特に高齢者に対する、オーラルフレイル対策の啓蒙に寄与するなど、具体的な連携活動に繋げる。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 公開講座および地域での講演会を各1回ずつ開催した。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 公開講座・講演会をの内容については概ね好評であった。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 地域社会へのアピールをSNS等活発にし、地域社会・住民にとって有意義な内容の公開講座を開催する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 2022年度は公開講座を学園祭時に開き、また学生による口腔清掃法などの講習会を開催する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート5	評価対象年度	2022年度(令和4年度)
カテゴリー	教育課程		
アセスメント	卒業における学修成果確認試験		
学部・学科	短期大学部製菓学科、ビジネス社会学科、歯科衛生学科		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
製菓学科	1. 確認基準 「和菓子」「洋菓子」「製パン」(製菓衛生師、実践コースに共通する座学)「食品衛生学」「栄養学」各分野における基本的な知識を測る、DPIに沿った問題を各分野8問(合計40問)出題する。 テスト形式(対面実施)で確認する。
	2. 実施日 2022年2月1日午後1時00分より2時00分(1時間)
	各分野50%以上の正答率を合格基準とする。 合格に達していない学生には2月10日に再試験を実施した。
	4. 結果 対象学生61名中、合格者60名。合格基準に満たなかった1名には再試験を実施した後、合格(卒業年次生61名全員)
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価(製菓衛生師:A評価、合格者33名、合格率97.0%)
ビジネス社会学科	1. 確認基準 学生が選択している各フィールド(秘書・ファイナンシャル、メディカル秘書、ファッション・カフェビジネス、観光・ホテル・ブライダルビジネスの4フィールド)について、それぞれのフィールドに設定されたテーマに沿って指定されたキーワードを使用しつつ文章を作成する。 ビジネス社会学科共通のGoogle Classroomのクラスを設定し、配布と提出を行う。
	2. 実施日 配布時期:2023年1月10日~1月23日 提出期限:1月23日17:00まで
	3. 評価方法 各課題のキーワードのうち6単語以上を使用し作成する。 合格に達していない学生に対しては、再テストを実施する。
	4. 結果 対象学生76名中、合格者73名。期限後に提出した3名は、審査後に合格(卒業年次生76名全員)
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価
歯科衛生学科	1. 確認基準 国家試験に対する準備状況を明確にすることで、卒業までの学びを総括するため、DHS模擬(歯科衛生士国家試験)試験をこれに充てる。
	2. 実施日 ①2022年12月12日 正答率60%以上を合格とした ②追再試験(2022年12月19日) 正答率90%以上を合格とした ③追再試験(2023年1月16日) 正答率90%以上で合格とした
	3. 評価方法 ①合格基準を正答率60%以上とし、合格者には同試験問題に関する口頭試問を実施することで、フィードバックを行う。不合格者には再度同じ試験を実施(②、③)し、合格基準を正答率90%以上とした。また、不合格者には、特別クラスを編成し、集中補講を行い、正答率90%以上となるまで指導した。
	4. 結果 ①合格者2名、②合格者35名、③合格者5名、合計卒業年次生42名すべて合格した。
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず A評価(国家試験合格者32名、合格率76.2%)

各種委員会

F D 実施委員会

教務委員会

学生委員会

就職・キャリア委員会

入試広報委員会

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	FD活動(新宿キャンパス)、全学FD研修会		
担当委員会・センター(構成員数)	FD実施委員会		
担当部署	教務部研究支援課、高等教育教育研究所		
記載責任者(役職)	今野裕之 大学新宿キャンパスFD実施委員長、小松由美 短期大学部FD実施委員長、今野裕之 高等教育教育研究所所長		
会議概要(実績回数)	キャンパス合同FD実施委員会(1回)		
添付エビデンス	「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」、「目白大学短期大学部各種委員会規程」、「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」 2022年度 第1回全学FD研修会実施概要、2022年度 第1回全学FD研修会報告、2022年度 第2回全学FD研修会実施概要、2022年度 第2回全学FD研修会報告、2022年度 FD実施委員会(キャンパス合同)議事概要、目白大学・目白大学短期大学部 FD活動の目標、2022年度「FD活動実施計画書」一覧、2022年度「FD活動実施報告書」一覧		

項目	2021年度 自己点検評価
事業内容	課題と2022年度の改善目標(Action) ① 全学FD研修において、高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、研修内容を充実させる。 ② FDに関する企画立案及び実施体制の見直し及び教員向けSDの実施についての体制を整備する。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 全学FD研修会開催の周知を徹底する。未受講者に対し、受講を促すメールを送信する等のフォローを適切に行う。 ② 関連部署が連携し、FD及び教員SDに関する方向性を定め、実施体制を整備する。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況(Do) ① 第1回全学FD研修会を2022年9月9日(金)～16日(金)に開催した。 研修内容としては、(1)コンプライアンス教育・研究倫理教育、(2)研究成果報告、(3)授業と評価に関する研修を実施。参加者は各自、動画や資料を期間内にオンライン上で閲覧するオンデマンド形式での研修会とした。 (1)コンプライアンス教育・研究倫理教育では、副学長が研究不正の種類や様態や「本学の研究不正防止体制」として新設された規則・規程について説明し、研究不正防止の意識向上を図った。(2)研究成果報告として、7名の研究者による成果発表があり、参加者は2名以上の発表を閲覧することとした。(4)授業と評価に関する研修として、授業評価アンケートの結果等についての説明の資料が提示された。 ② 第2回全学FD研修会を2023年2月9日(木)に開催。その後、2023年2月8日(水)～15日(水)にオンデマンドでの配信も行った。 研修前半は目白大学公開講座も兼ね、大正大学特命教授の山本 繁氏を講師に迎え、「中退リスクの高い学生の早期発見と初年次教育」として講演会を実施。後半は、「第3期中退防止プロジェクトについて概要、各キャンパスの取り組み、実態等」と題してオンデマンド形式での研修とした。 ③ FD実施委員会(キャンパス合同)を2022年 6月15日(水)にメール審議で実施した。 2021年度「FD活動実施報告書」が報告され、2022年度全学FD研修会実施計画(案)についてを審議、承認された。また、「目白大学・目白大学短期大学部FD活動の目標について」が提示され、当該目標に基づき、2022年度「FD活動実施計画」を各学部・学科・研究科・専攻ごとに策定した。 ④ 各学部・学科・研究科・専攻から、2022年度「FD活動実施計画書」の提出があった。年度末には、2022年度「FD活動実施報告書」が提出された。 ⑤ 大学設置基準が2022年10月1日に改正されたことに伴い、全学で行うファカルティ・ディベロップメント(FD)と、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図る研修(いわゆるスタッフディ・ベロップメント(SD))について、組織的な研修の機会を設けることにより、教員並びに事務職員の一入ひとりの積極的な大学運営への参画を促し、教職協働の実質化の促進と、より一層の教育研究活動の質向上を目的とした委員会を設置するため、「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」を新設した(2023年4月1日施行)。
	2. 点検・評価(Check) ① 未受講者へメールで研修案内を送信し、受講を促すことで、第1回全学FD研修会の参加率は100%であった。研修後のアンケートにおいても、88%以上の参加者が各研修内容について「とても満足」又は「満足」と回答した。 ② 第2回全学FD研修会の参加率は、96.6%であった。91%以上の参加者が各研修内容について「とても満足」又は「満足」と回答した。 ③ FD実施委員会(キャンパス合同)はメール審議の形式のため、委員全員が参加することができた。 ④ すべての各学部・学科・研究科・専攻から2022年度「FD活動実施計画書」及び「FD活動実施報告書」が提出された ⑤ 「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」の新設に伴い、「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」及び「目白大学さいたま岩槻キャンパス各種委員会規程」、「目白大学短期大学部各種委員会規程」、「エグゼクティブSD実施要領」を改訂した。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 全学FD研修において、高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、研修内容を充実させる。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」に基づき、組織的にFD及びSDを実施する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	教務支援		
担当委員会・センター(構成員数)	教務委員会(大学:29名、短大:3名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス教務部教務課		
記載責任者(役職)	雪吹 誠(学務部長(教務担当))、堀 崇一郎(教務部長)		
会議概要(実績回数)	11回		
添付エビデンス	①2023オリエンテーションの説明資料、2023年度 学年暦、総合科目授業形態 ②2022年度秋学期試験実施要領、 ③2022年度秋学期の事前抽選講義申請について、2022年度秋学期事前抽選該当科目一覧(案)、2022年度春学期総合科目受講年次割合、 ④「臨地研修」に関する申し合わせ(2022年度改訂案)、2022年度臨地研修の件数、 ⑤2023年度シラバス執筆依頼、2023年度 シラバス点検のポイント(セルフチェックのお願い)、2023シラバス点検依頼、2023年度「学修成果」の調査について ⑥BYODの実施について、Slackの導入について、新LMS(Schoo Swing)の導入について		

項目	2021年度 自己点検評価
事業内容	課題と2022年度の改善目標(Action) ① 遠隔授業について、 ・感染対策に配慮しながらも十分な教育効果がある授業を行う。 ・新生生に対して遠隔授業の受講方法等十分な指導を実施をする。 ・遠隔授業のメリットを十分生かし、さいたま岩槻キャンパスとの合同授業の導入を検討する。 ② 期末試験について、 ・追・再試験実施にあたり確認不足の学生が発生しないよう事前の周知を工夫する。 ・遠隔試験時の通信トラブル対応の見直しを行う。 ③ 抽選機能について、抽選に当選したもののその後取消を行う学生が多く、煩雑な事務手続きが発生した。次年度以降、抽選科目の選定や時間割の配置を検討していく。 ④ 「臨地研修」について、 ・実時間を報告することにより、研修の実態を把握することができた。 ・引き続き2021年度も「臨地研修」を積極的に奨励し、優れた研修を行った学生に成果報告会を開催する。また、ホームページ掲載も検討する。 ⑤ シラバスについて ・学生が計画的に事前事後学習を行うことができるよう、事前・事後学習の「内容」および「学習に必要な時間」を明確に記入する。 ・遠隔授業を取り入れる科目については、各回ごとに授業実施形態を明示する。 ⑥ 学内接種について、2022年度に第3回目の職域接種を予定している。学内接種者以外の学生が申請しないよう申請フローを改善していく。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 遠隔授業について、2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の状況に即座に対応できるよう、流行状況と授業形態でマトリックスを作成し、きめ細かな準備を行う。 ② 期末試験について、 ・教員による試験実施の申請から成績入力完了までの実施要領の充実、および教務課の期末試験業務の効率化をはかっていく。 ・教員・学生向けの遠隔試験時のマニュアルや通信トラブル対応のマニュアルを充実する。 ③ 抽選機能について、現状、共通科目は分野横断科目、学際科目、異分野入門科目からそれぞれ2単位ずつの履修となっている。抽選対象科目の中には遠隔授業の科目もあるため、時間割の配置を工夫することにより抽選自体を回避できる可能性がある。2022年度以降の授業方針及び教務システムを含め検討を重ねていく。 ④ 「臨地研修」について、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインでの研修もあり実施形態が多様化してきた。対面およびオンラインにも対応した効果的な実施及び指導ができるよう各学科で計画していく。 ⑤ シラバスについて、ディプロマポリシーと整合した具体的な到達目標、適切な事前・事後指導、成績評価基準などを学生等に対して明確にし、学生の主体的な学習を促すための資料等作成をする。 ⑥ 学内接種について、接種者のみ公認欠席申請ができるよう、接種日の受付時に申請用QRコードを紙面にて渡す。

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	① 遠隔授業について ・2022年度より原則対面授業となったが、共通科目内の総合科目区分の授業については、遠隔授業(オンデマンド型)の授業を積極的に導入した。 ・新生生へはオリエンテーション用の動画で、授業実施形態を周知した。 ・新宿CP・さいたま岩槻CPとの合同授業導入に関しては、具体的には2024年度からの導入を目指すことになった。 ② 期末試験について ・遠隔試験時において教室内でフォームを使用した試験を実施することや、教員がトラブルに備え試験時間にZoomで待機するなど、試験中のトラブルに対応できる体制を整備した。 ③ 前年度より引き続き共通科目内の総合科目は履修登録時に抽選機能を使用した。総合科目は、遠隔授業となるため通常時間割外に設置する検討をした。 ④ オンライン研修を効果的に利用し、臨地研修を実施した。また、臨地研修科目の質保証のための方針を検討した。

事業 内容	<p>⑤ シラバスについて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「評価の方法及び観点」の項目において、評価の観点が明確になっていない科目は成績照会が発生する傾向があるため、ルーブリックの導入について検討を行った。 ・「学修成果」の項目が全学共通の学士力との整合性が取れていない科目が散見されていた。シラバス執筆者に同項目の入力を依頼するのではなく、学科・部会の方針に沿った学士力を明示するよう変更した。 <p>⑥ 学内接種について、トラブルなく公認欠席の手続きをすることができた。</p>
	<p>2. 点検・評価 (Check)</p> <p>① 遠隔授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通科目の総合科目で、44科目中38科目を遠隔授業(オンデマンド型)で実施した。 ・オンデマンド型の授業は、時間割上通常コマに配置はせず別枠を設ける(2023年度は土曜日6限等)。 ・オンデマンド型の授業の授業動画・課題配信日(原則金曜日20時)と課題提出日(原則火曜日21時)を決め、学年暦にも記載した。 <p>② 遠隔試験での特段のトラブルは発生しなかった。</p> <p>③ 共通科目内の総合科目は履修登録時に抽選機能を使用しているが、履修者の学年にバラツキがみられ、配当年次生以外の学生が半分以上占める科目があったため、学年のバラツキが少なくなる方法を検討した。</p> <p>④ 2022年度は99件の報告があったが、そのうち80件はオンラインを利用した臨地研修であった。</p> <p>⑤ シラバスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度シラバスより評価の観点を3項目以上記入することを必須とした。また、現状ルーブリックの導入は任意ではあるが積極的に奨励した。※シラバス執筆時にルーブリック評価の枠を表示。 ・「学修成果」が学士力との整合性を取ることができた。 <p>⑥ 公認欠席申請者150名分、317科目について、滞りなく処理ができた。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <p>① 遠隔授業について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対してオンデマンド型の周知が徹底されておらず、大学内にて受講すると考えていた学生が多く混乱が生じた。 ・総合科目はオンデマンド型の授業が定着してきた。その他にも例えば学部共通科目などの講義科目において、オンデマンド型の授業でも教育効果が得られる科目は、新LMS(SchooSwing)を活用した授業実施形態の検討を各学科に依頼していく。 <p>② BYODについて、2023年度よりBYODの実施が始まり、BYODに対応可能な新LMSとしてSchooSwingを導入する。2023年度はGoogleclassroomと併用しながらの運用とはなるが、徐々にSchooSwingの知見を蓄積していき、情報を共有化を目指す。</p> <p>③ 2023年度以降、共通科目内の総合科目は学年のバラツキをなくすよう検討した方法(該当学年と該当学年以外の学年を分け事前抽選をする)を実践し、より最適な仕組みへと改善していく。</p> <p>④ 臨地研修について、教務委員会での報告一覧では、学生個々の活動内容・活動時間を確認することができない。単位数相当の時間数を確保しているか確認できる仕組みを検討する。</p> <p>⑤ シラバスについて、2024年度より全科目についてルーブリック評価の導入を予定しているが、教員にルーブリック評価自体の理解不足や浸透していない状況である。</p>
	<p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <p>① 遠隔授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新LMS(SchooSwing)を活用し、共通科目での遠隔授業(オンデマンド型)を積極的に展開していく。 <p>② SchooSwingを利用した授業(対面・遠隔・ハイフレックス)のモデルを公開し、教員の利用実績を高めていく。2024年度はSchooSwingを全ての授業で使用し、BYOD化に対応する。</p> <p>③ 2024年度より岩槻キャンパスとの共通開講を実施するため、学年暦の違いに関連する問題や事前抽選の在り方について2023年度中に検討する。</p> <p>④ 臨地研修について、2023年度の報告より、教務委員会に報告一覧を提出する前に学生個別の報告書を教務委員に共有する。教務委員は報告書を確認し、疑義がなければ教務委員会に提出することにし、また、質の確保が担保できるよう仕組みをより良い形に改善していく。</p> <p>⑤ シラバスについて、ルーブリック評価を必須化するため、2023年度内に教員へのFDやルーブリック評価作成マニュアルなどを検討する。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生支援(厚生補導)		
担当委員会・センター(構成員数)	学生委員会(18名) ※事務局職員を除く		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス学生部学生課		
記載責任者(役職)	今林正明(学務部長学生担当)、高橋寛(学生部長)		
会議概要(実績回数)	10回		
添付エビデンス	学部長等会議議事概要、学生委員会議事概要、大学Webサイト、特定支援団体運営委員会資料、桐光会総会及び奨学委員会資料、学生相談室連絡会議資料		

項目	2021年度 自己点検評価
事業内容	<p>課題と2022年度の改善目標(Action)</p> <p>①【なんでも相談窓口】認知度向上を図り学生の利用を促すとともに、中途退学防止プロジェクトの「ハブ」としての機能を果たすことのできるよう努め</p> <p>②【特定支援団体(チャリーディング部)】学校推薦型選抜(チャリーディング推薦型)に応募がなかった等、部員募集について大きな成果をあげることができなかった。</p> <p>③【学生相談室】個別支援に加えて大学全体の学生支援が可能となるプログラム実施を検討する。</p> <p>④【新入生データ関係業務】データ収集までの段階については課題解決したと判断し、今後は集めたデータの取り扱いをより簡素化し、データ利用のしやすさ・拡張性を向上出来るように務める。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】改正規程にある多子世帯の解釈と運用に混乱がないよう対策を講ずる必要がある。</p> <p>⑥【桐和祭】新型コロナの感染状況等を見極めながら、本来の形である対面での開催について模索していく。</p> <p>⑦【証明書発行】来校での手続きを基本とする証明書発行について、利用者目線で利便性向上を図る必要がある。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>①【なんでも相談窓口】相談内容の分析、出欠状況の把握、学生相談室・障がい等学生支援室・保健室との連携等を通じて、高リスク学生について把握し、学内での情報共有を図る。</p> <p>②【特定支援団体(チャリーディング部)】従来からの学校訪問等に加え、SNSを利用した発信力の強化等により、部員獲得に努める。</p> <p>③【学生相談室】学生生活を適応的に送っている学生も対象に含め、学生同士の交流を促すグループワークを実施する。</p> <p>④【新入生データ関係業務】データ処理のスケジュールを定型化(定型文を利用、処理工程を整理する等)することで、作業の確実性と処理速度の向上を図る。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯についての解釈について判断基準を設ける等して、2022年度以降の改正規程に基づく委員会審査が円滑に進むよう努める。</p> <p>⑥【桐和祭】感染対策の徹底、ハイブリットを含む開催形態の工夫、出展内容の範囲の検討等、コロナ禍における対面開催に必要な事項について具体的に検討する。</p> <p>⑦ 学外(コンビニエンスストア)での証明書発行等について検討する。</p>

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>①【なんでも相談窓口】従来からの取組みに加え、第3期中退防止プロジェクトの一環として、ハイリスク学生の共有フォルダを管理し、既定の基準に基づきアラートメールの送信等を行った。</p> <p>②【特定支援団体(チャリーディング部)】今年度はチャ推薦1名、チャ推薦以外で2名、計3名の入部があった。</p> <p>③【学生相談室】メンタルヘルス予防・学生同士の交流を目的に、3年ぶりに全学に向けたワークショップとしてストレスケア講座(2回)を実施した。</p> <p>④【新入生データ関係業務】問い合わせが多かった内容について、WEBページともリンクするQ&Aページを作成することで、問い合わせ件数の減少を図り、その結果、データ処理においても概ねスケジュール通りに実行することができた。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯の定義に関する運用基準(扶養者1名に対し被扶養者2名を目安とし総合的に判断)を定めた。</p> <p>⑥【桐和祭】新型コロナ感染防止のため飲食物を販売する模擬店の出店は原則的に禁止としたものの、3年ぶりに対面による桐和祭を開催した。</p> <p>⑦ 学生課において具体的な導入プランを作成し、学園本部と協議を行った。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>①【なんでも相談窓口】ハイリスク学生の共有フォルダーを支障なく運用し、学内における情報共有と組織的対応について一定の成果を上げることができた。</p> <p>②【特定支援団体(チャリーディング部)】3名の新入部員を確保し、5月1日現在、部員数が12名となったことは前進であるが、これで十分とは言い難い。</p> <p>③【学生相談室】15名が参加し、事後のアンケートでは楽しく役に立つ内容であったと満足度の高い感想が寄せられた。</p> <p>④【新入生データ関係業務】WEB化によって、「誰の作業が未完了か」を確認し、個別対応できたが、未完了の学生が発生することは避けられず、彼らへの対応方法やスケジュールを事前に決めていなかったため対応が不明確になった。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯を対象とした桐光会奨学委員会での審査が混乱なく円滑に行われた。</p> <p>⑥【桐和祭】実行委員会内で開催ノウハウの継承が途絶えるの悪条件の下、学生と大学とが協力して開催にこぎつけ、2日間で6,069人の来場があった。</p> <p>⑦ 学園本部との協議の結果、現行の発行システム導入から間もないこと等から将来的な課題とするとの結論に至った。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>①【なんでも相談窓口】学科によってハイリスク学生の共有フォルダの活用の度合いに濃淡があった。</p> <p>②【特定支援団体(チャリーディング部)】競技レベル向上のためにも、今年度以上の入部者確保を目指す。</p> <p>③【学生相談室】より多くの学生にメンタルヘルス予防としてのセルフケアの周知・学生同士の交流の機会を提供する必要がある。</p> <p>④【新入生データ関係業務】WEBでの作業を完結出来ていない学生のための対応スケジュールを準備しておく必要がある。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯の定義について、2024年度からの修学支援新制度の拡充(多子世帯への支援強化他)の動きとの整合性を図る必要がある。</p>

⑥【桐和祭】今年度より飲食を含む通常開催に戻す予定であるが、実行委員会の運営能力を如何に向上させるが成功の大きな鍵となる。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【なんでも相談窓口】学科長及び学生委員に対し、共有フォルダの活用を呼び掛けるとともに、アクセス方法等について丁寧に周知する。
- ②【特定支援団体(チアリーディング部)】従来の取組に加え、学内の合同クラブ説明会、オープンキャンパスにも積極的に参加し、受験生への浸透をはかる。
- ③【学生相談室】学生の成長・支援に役立つようなワークショップ、グループ活動の実施、交流が図れるような居場所づくりをすすめる。
- ④【新入生データ関係業務】不備がある学生の場合のスケジュール・対応を事前に別途用意しておき、新年度の作業負担・混乱を軽減させる。
- ⑤【桐光会奨学金】多子世帯の定義について、修学支援新制度上の基準を準用する。
- ⑥【桐和祭】実行委員会と学生課との協働をより強化し、4年ぶりの完全開催を成功に導く。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	進路指導		
担当委員会・センター(構成員数)	就職・キャリア委員会(32名)		
担当部署	就職支援部		
記載責任者(役職)	牛山佳菜代学務部長(進路担当)、鈴木あ久利(就職支援部長)		
会議概要(実績回数)	2022年度就職・キャリア委員会議事概要(11回)		
添付エビデンス	2022年度就職・キャリア委員会議事概要(11回)、キャリアブック、保護者のための就職活動支援ガイド		

項目	2021年度 自己点検評価
事業内容	<p>課題と2022年度の改善目標(Action)</p> <p>① 正課授業のキャリア教育について、新たに「キャリア演習」を科目に加え、より内容の充実をはかる。</p> <p>② 内定率について、各月ごとに前年との比較を徹底、分析し、適切な対策を講じていく。</p> <p>③ キャリア研修について、履修した個々の学生について、その後就職活動での活動量に繋がっているかを追跡する。</p> <p>④ 個別の学生相談について、内定ができるまで丁寧に対応することは基より、配慮が必要な学生、障害をもつ学生に対しては、学生相談室および学生課とより密に連携し、適切な支援をしていく。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、より円滑に、漏れなく行えるよう、学生からの内定報告や進路希望提出について大枠の仕組み作りをして、効果的に周知する。</p> <p>⑥ 正課外の講座について 必要とする学生に必要な支援が届くよう、厳選した講座を効率よく実施する。</p> <p>⑦ 保護者対象就職説明会について、オンデマンドのアクセス数は少なくとも、充実したガイダンスの冊子により、保護者に理解を進めてもらう。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、Zoomと対面の経験値を活かして、今後学生に対して効果的なセミナーを検討する。</p> <p>⑨ アンケートについて、2022年度も継続して、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートを実施して、推移を比較検討する。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① 正課授業のキャリアデザイン科目関連について、専任教員の配置を検討し、教育内容の更なる充実をはかる。</p> <p>② 内定率について、学生の求人検索ナビへの登録を強化し、早い時期から実態を掴めるようにしていく。</p> <p>③ キャリア研修について、キャリア研修Ⅰの研修先企業の選定を本学学生に合ったものとする。</p> <p>④ 個別の学生相談について、障害学生の授業受講や講座参加がスムーズにできるよう、更にセンターの経験値を増やすため、課員はセミナー等を受講する。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、3年就職活動解禁前までの進路希望提出の周知と4年春学期中に活動継続の有無を電話かけ等により適切に把握する。</p> <p>⑥ 正課外の講座について 参加者数の多い、3大ガイダンス(インターンシップ、キックオフ、直前)からの流れを効果的に使った就職支援講座を実施する。</p> <p>⑦ 保護者対象就職説明会について、冊子を送るとともに、対面の全体会と学科ごとの説明会を開催し、保護者への本学キャリア教育の認知度を高め、就職活動への不安を軽減する機会として位置付ける。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、これまでのZoomを中心に合同企業ウェブセミナーを継続し、ピンポイントで対面の合同企業セミナーの機会を合わせて検討する。</p> <p>⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートについて、項目ややり方に齟齬がないか検討・確認する。</p>

項目	2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	<p>① 正課授業のキャリア教育について、3年次共通科目「仕事と社会」では、専任教員を配置し、体系的なキャリア教育授業を行った。</p> <p>② 内定率について、就職・キャリア委員会において、毎月、前年度の内定率との比較および前月からの推移をグラフ化して提出し、委員会内で共有した。</p> <p>③ キャリア研修について、「キャリア研修Ⅰ」では、研修先企業にSDGsやIT関連企業を取り入れ、時代に合った学生が考えやすい課題を提供した。</p> <p>④ 個別の学生相談について、特に配慮学生や発達障害およびグレーゾーンの学生に対しては専門のスタッフを配置し、学生課とも連携して就職支援を行った。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、進路希望の提出、活動状況の確認を就職・キャリア委員への依頼やゼミ訪問時、また学生本人への直接電話かけを通じて積極的に行った。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、3大ガイダンスを中心に厳選した講座を置き、必要とする学生に届けられるよう、あらゆる機会を通じて周知を行った。</p> <p>⑦ 卒業前年次学生の保護者を対象に、対面での保護者対象就職説明会を開催し、事前に理解を補足する「保護者のための就職活動支援ガイド」を送付した。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、遠隔でのウェブセミナーを継続するとともに、対面での合同企業セミナーも復活させ、双方を合わせて同日実施することができた。</p> <p>⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートについて、2022年度夏、項目ややり方を検討の上、実施した。</p>
2. 点検・評価(Check)	<p>① 「仕事と社会」で本学の学生に即した実践的なキャリア教育を行い、キャリアセンターで開講している講座を周知することにより、相乗効果に繋がっている。</p> <p>② 2022年度卒業生の内定率について、5月1日現在、前年同様に大学全体で98.2%という良好な就職率となった。</p> <p>③ 2022年夏参加者20名への「キャリア意識の発達に関する効果測定テスト(CAVT)」によれば、キャリア研修後には、「Action」と「Vision」の数値が相対的に高まった。</p> <p>④ 個別の学生相談について、配慮が必要な学生や発達障害をもつ学生のためのガイダンスを2回実施し、19名の参加者に丁寧にガイダンスを行った。</p> <p>⑤ 学科ごとの就職活動やキャリア授業内容についての取り組みを発表してもらった機会を就職・キャリア委員会において設け、各学科学生の状況について共有した。</p>

- ⑥ 講座について就職・キャリア委員会や課内会議でも都度チラシを配付し、キャリア委員やカウンセラーからも必要とされる個別学生への情報提供ができた。
- ⑦ 保護者対象就職説明会の来場保護者220名(約20%)よりアンケートを回収し、96.2%の保護者が説明会で聞いたかったことが「十分」もしくは「概ね」解決できたと回答した。
- ⑧ 合同企業セミナーについて、Zoomにおける経験値と対面のよいところを活かして、効果的なセミナーを実施でき、延べ1790名が参加した。
- ⑨ アンケートについて、卒業生が就職した企業アンケートからのフィードバックにより、会社の重視している点や資格への見方が明らかとなった。

3. 課題と次年度の改善目標(Action)

- ① 正課授業のキャリア教育について、新たな「キャリア演習」の開講に伴い、低学年から学生に充実したキャリア教育の場を提供し、学生の就職リテラシーを高める。
- ② 内定率について、卒業年次の4月より、各月ごとに前年との比較を行い、状況を確認して、学生に対して適切な対策を講じていく。
- ③ キャリア研修について、「キャリア研修Ⅰ」がインターシップの入り口として機能し、その後の学生の就活にまつわるアクションにつながっていくかどうか検証する。
- ④ 個別の学生相談について、配慮が必要な学生、障害をもつ学生に対しては、学生相談室および学生課とより密に連携し、適切な支援をしていく。
- ⑤ 学生の状況把握について、より円滑に、漏れなく行えるよう、学生からの内定報告や進路希望提出について年間スケジュールを作り、委員会でも共有する。
- ⑥ 正課外の講座について 授業のキャリア科目担当教員と連携しつつ、年間の就活スケジュールの中で、厳選した講座を効率よく実施する。
- ⑦ 保護者対象就職説明会について、事前送付冊子で保護者による認知度を高め、対面の説明会で保護者からの一定の満足度を得られるよう、やり方を工夫する。
- ⑧ 合同企業セミナーについて、アフターコロナの環境下、学生が参加しやすく、満足度の得られるセミナーのやり方、関心に繋がる参加企業のリストアップを検討する。
- ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートの結果を精査し、今後の学生たちの就職活動や自己啓発に供するものとする。
- ⑩ 資格取得について、就職・キャリア委員会を通じて、各学科の学びと連動した、役立つ資格の取得を奨励していく。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ① 新共通科目「キャリア演習」において、履修者は就職活動に役立つようなコミュニケーション能力を向上させていることをフィードバックにより確認する。
- ② 内定率について、全学生への面談を推進するとともに求人検索ナビへの状況登録を強化し、早い時期から実態を掴めるようにしていく。
- ③ キャリア研修について、履修した個々の学生について、在学中の就職活動での活動量や社会で活かせる資格取得等を行ったかを追跡する。
- ④ 特に個別の支援を要する学生の発見や各学生の就職活動を取り巻く状況や取り組み方を知るために、卒業前年次の全学生面談を実施する。
- ⑤ 就職・キャリア委員会において、就職活動に関する最新の情報や就活生のおかれている状況が直接把握できるような、教員のための勉強会を実施する。
- ⑥ 3大ガイダンス(インターシップ、キックオフ、直前)では多数学生の意識を底上げし、個別講座では時流の中でのニーズを掴んだ講座を実施する。
- ⑦ 保護者対象就職説明会のアンケート項目に、事前送付の冊子「保護者のための就職活動支援ガイド」に関する項目を追加し、前回アンケート結果に基づく改善を検討する。
- ⑧ 合同企業セミナーについて、学生がセミナー参加後は実際の就職活動へスムーズにシフトできるよう、2月～3月の学内就活講座を充実させる。
- ⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートの活用方法について、就職・キャリア委員会で検討し、実践する。
- ⑩ 資格取得について、便覧とは一線を画したキャリアセンターによる「資格リーフレット」を作成し、社会に出てから役立つ資格取得について情報発信と支援を行う。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生募集		
担当委員会・センター(構成員数)	入学センター(14名)／新宿キャンパス入試広報委員会(28名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス入試広報部		
記載責任者(役職)	太原 孝英(入学センター運営委員会委員長)／鷲谷 正史(入試広報委員会委員長)		
会議概要(実績回数)	入学センター運営委員会(9回)、入試広報委員会(9回)		
添付エビデンス	入学案内、各種募集要項		

項目 2021年度 自己点検評価

事業内容	課題と2022年度の改善目標(Action)
	改善に向けての具体的な計画(Plan)

項目 2022年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入

1. 取組状況(Do)	<p>①【募集活動】高校訪問、進学ガイダンスへの積極的参加(4～12月、3月)、高校教員対象説明会(5月)の実施。</p> <p>②【入学者選抜日程】日程は、原則的に前年度を踏襲した。前年度に引き続き、入学者選抜の実施において、新型コロナウイルス感染予防対策及び新型コロナウイルス感染者等への配慮措置を実施した。</p> <p>③【年内選抜(総合・推薦)】安全志向の受験生を取り込むべく、年内入試(総合型、推薦)での入学者確保を目指した。</p> <p>④【一般選抜】中期・後期日程の受験者数の減少を見込み、前期日程(特に、全学部統一選抜・一般選抜A日程)による確保を目指した。また、合否判定において、IRから提供された入学後のGPAに関する資料を活用した。</p> <p>⑤【OC等】新型コロナウイルスの感染予防を配慮しながら、来場型を中心としたハイブリッドOCを計6回開催した。11月は、オンラインで一般選抜対策講座を開催した。</p> <p>⑥【HP(受験生応援サイト)】媒体から流入する受験生に対し、大・短大のいずれの進路も検討しやすいよう、大学受験生サイト内の「学科一覧」のページに短大の各学科へのリンクを追加した。また、スマートフォンのファーストビューに「資料請求ページ」や「オープンキャンパス等イベント」への予約ページへ誘導するアクションボタンを追加した。「キャンパススナップ」など学生の雰囲気伝えるコンテンツを拡充した。</p> <p>⑦【制作物(紙)】Webサイトのページへ遷移するQRコードを約15カ所増加、動画へ遷移するQRコードを新規で16学科分追加し、サイト・動画への導線を強化した。</p> <p>⑧【広告】Web媒体から本学ホームページへのアクセス強化と既存の紙媒体(冊子・DM・FAX等)の併用</p>
2. 点検・評価(Check)	<p>①【募集活動】高校訪問及び進学ガイダンスは、岩槻入試課と協働して首都圏を中心に行なった。高校訪問:605件(前年比:104%)、進学ガイダンス:251件(前年比:141%)。高校からの要請に可能な限り応えた結果、2021年度を上回る訪問活動を行い、多くの高校教員や受験生に接触できた。高校教員対象説明会(5月)は、48校が来場した。</p> <p>②【入学者選抜日程】年内入試は前年度の日程を踏襲した。また、本年度も新型コロナウイルス感染に伴う振替受験の対応を行い、3名に適用した。</p> <p>③【年内選抜(総合・推薦)】年内選抜による確保のため、高校教員への広報やオープンキャンパスの動員が功を奏し、大学の入学者は対前年で108%となった。一方で、短大は志望者が四年制大学に流れる等の影響を受けたことにより、対前年で72%となった。</p> <p>④【一般選抜】大学は、前期日程の全学部統一、一般選抜A日程の受験者数が前年比109%で増加したが、共通テスト利用が68%となり減少した。また、中期、後期の志願者減少と他大進学を理由とした辞退の影響は出たものの、大学の入学定員充足率は101%だった。短大は、年内入試での確保が振るわず入学定員充足率が80%だった。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ⑤【OC】受験生が「学科の学び」「学科の雰囲気」に直接ふれる機会をさらに増やすことを目的として、感染予防対策を取りつつ、予約制で実施した。全ての回を対面式で開催し、企画内容を「学科の学び」の理解が深められるような構成にしたことで来場者数を伸ばすことができた。(受験生数 大学: 4,710名、短大: 591名) 一般選抜対策講座は、前年度に引き続きWeb開催とした。オンデマンドにしたことで視聴しやすくなり、申込者数が前年度を上回った。(458名 前年比126%、2021年度: 361名) ⑥【HP(受験生応援サイト)】媒体からの流入を意識した動線を構築した。また、「学び体験」、「総合型選抜体験談」の動画掲載、「ゼミNavi」の新規ページ追加などWeb上のコンテンツを充実させた。スマホの操作性を向上させる画面作りに着手した。 ⑦【制作物(紙)】Webに移行した方が効果的なコンテンツと、進学ガイダンス等で配付できる制作物(入学案内等)を精査した。 ⑧【広告】エリア・志望学問/分野・学年・偏差値等、送付したいターゲット層を厳選して情報発信を行なった。また、時期に合わせて担当業者や広告内容を変更し、幅広くかつ的確な情報を取り入れた広告掲出を実施した。
<p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①【募集活動】進学ガイダンスは受験生の情報源であるため、3年生対象だけでなく1、2年生対象も積極的に参加する。高校訪問は、首都圏(特に一部三県)を中心に訪問する。高校教員対象説明会は引き続き実施し、来場いただいた高校には指定校推薦に関する情報提供ができるように学内の決定を1か月前倒しする。 ②【入学者選抜日程】2023年度の日程を踏襲する。 ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者を2023年度以上に確保する。 ④【一般選抜】受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様にこまめな情報提供を行う。また、前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を視野に入れながら慎重に可否判定を行う。 ⑤【OC】来場型をメインとする運営を前提として、2022年度の受験生来場者数(大学: 4710人、短大: 591人)を超えることを目指す。また、「WebOC」ページなどWebコンテンツを充実させる。 ⑥【HP(受験生応援サイト)】本学HPの受験生応援サイトに、2022年度に充実させたコンテンツを活かし、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスへ来場できなかった受験生にむけて、Web上で必要な情報を提供することに注力する。 ⑦【制作物(紙)】受験生等の本学への志望度、出願へのモチベーションアップにつなげられる制作物を目指す。 ⑧【広告】進学情報サイト(リクルート、マイナビ、ベネッセ等)やSNSを活用し、効率的に本学の受験生応援サイトに誘導する環境整備を行う。広告掲出後の本学ホームページへのアクセス・イベント参加・出願などの数値を計測する。
<p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①【募集活動】高校訪問は引き続き首都圏を中心に行なう。訪問にあたっては、直近の入学実績、OCの来場者所属校、模擬試験受験時の志望校情報等を活用し、効果的に訪問先を選定をする。また、質問されそうな想定問答を学科と検討し、的確な説明ができるよう情報共有を行う。 ②【入学者選抜日程】2024年度入学者選抜の日程(2022年度中に審議・決定)について、年内入試は2023年度入学者選抜を基に日程を組んだうえで、総合型選抜A・C日程は志願者との面接を行って選考することとした。一般選抜は受験生が併願しやすい日程を検討し調整を図る。 ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことで志望度が高くなる傾向にある。そのため、高校訪問、進学ガイダンスにおける説明やWeb媒体やSNSからホームページへの誘導を図り、オープンキャンパスの来場者増を目指す。また、来場者の満足度を上げ出願に結びつける。これにより、総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者を2023年度以上に拡大する。短大は、総合型選抜及び総合型選抜において入学定員を確保する。 ④【一般選抜】一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討し、高校教員と相談して併願校を決定している。そのため、受験生の情報収集の行動から漏れないように、高校や塾への訪問、進学情報サイト、WebDM、SNS等を中心とした情報発信を行い、志願者を増やし、全学科の入学者定員確保を目指す。 ⑤【OC】来場者の出願率を高めるため、各学科のアピールポイントが出し易いプログラムや受験生と在校生の接点が多くなるようなプログラムを実施する。来場者には、SNSを活用し、定期的に情報を提供する。 ⑥【HP(受験生応援サイト)】サイトトップページから、オープンキャンパスや学科イベントの申込ページまで、受験生応援サイトの導線の利便性を高める。また、当サイトに長く滞在してもらうため、コンテンツの内容を充実させる。 ⑦【制作物(紙)】Web媒体とのバランスをとりつつ、それぞれの特長を生かしながら制作する。 ⑧【広告】進学アクセスオンライン、Studyplus Marketing PlatformやGoogleアナリティクス4等のWeb分析システムのデータを活用し、より効果がある媒体広告の選定と展開を行う。

2022年度 目白大学短期大学部 自己点検評価年次報告書

編集：目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会（短期大学部部会）

発行：2023年6月

